

令和3年度 下野市立石橋中学校第2回学校運営協議会議事録

令和3年10月26日(火)
13:30～ 於：石橋中学校会議室
記録 秋山

参加者（敬称略）

学校運営協議委員

藤沢 修一（委員長）、青木 正憲（副委員長）、池上 行雄、大塩 宗里、柏崎 松美、中川 賢一、
小島 恒夫、山口 容子、田熊 利光（校長）

事務局

齋藤佳代子（教頭）、秋山 実（教務主任）、武井 一浩（生徒指導主事）、矢口 裕子（事務長）

1 開会

2 校長挨拶

○輝石祭（文化祭）について

- ・今年度は各ゼミでSDGsをテーマに研究を進めた。各ゼミともただ、調べるだけでなく、発信までしていた。来年度もぜひ続けていきたい。
- ・本日は、授業を参観していただき、戻って来てから感想をいただきたい。

3 本日の日程について行事報告

- ・13:50～14:40 校舎内見学・授業参観（1年6組 社会 2年2組 国語）
- ・14:50～15:30 授業感想及び情報交換

4 校舎内見学

13:50 ～ 14:40	1年6組 社会 菊地 智裕教諭	A班
	2年2組 国語 板倉 幸輝教諭	B班

A班：藤沢、小島、青木、池上、大塩

B班：中川、柏崎、山口、西本、高野

5 授業の感想及び意見交換（敬称略）

発言者

発言内容

大 塩

・生徒の声が小さくてもグループ内での会話はお互いに聞こえているようである。先生の話しのすすめ方が上手。生徒がどんどん話をしたくなる。

柏 崎

・話し合いのできるグループとうまくできないグループの差が激しい。うまく話し合いが進められないグループのサポートはどのようにしていくのか。

・なるべく本人達に考えさせながらゴールへたどり着く様子が面白い。

中 川

・話し合いになるときに30人が一斉に話し出したのでびっくりした。以前に高校を訪問した際にも40人が一斉に話し出した。コロナ禍の状況を考えると怖いところもある。

・口を開いて、目を見て、耳に入る。体（五感）を使って学ぶ姿が良い。

・振り返りがなかったが、このあとやるのか。

・決まり文句を言うときには2人でやるとお互いに正面を向かなくてはならないが、3人でやれば、向き合わなくてもすむ。

・パーテーションを利用しているので、話し合いの時にもう少し上手に使うようにしてほしい。

・ノートを取らない生徒がいるのでそういった生徒への指導も。

・時間を上手に使っている。

小 島

・事前に課題を知っていれば、親子で話しをできるのでは。そのようにして大人も学ぶ、地域で学ぶというふうにも大人も巻き込んでほしい。そうすることで親子の会話も増えるのではないかと。

池 上

・実際に現地で経験したことと教科書にギャップはあるが、先生が教科書をよく教えている。

藤 沢

・今は、何かを調べるときにタブレットをすぐに使えて良い。

山 口

・先生がすごく工夫をされている授業である。これからの人材を育てる授業だと感じた。

高 野

・ゲーム感覚から始まって楽しそうである。

西青木	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの共同体の実践。大変そうだが目配せをしながらしっかり行われているなど感じる。 ・雰囲気は和やかで、生徒同士、先生と生徒の関係が良い。男女の仲も良く、学級経営がよく行われている。話し合いが活発に行われていても授業の最後には静かに振り返っている。
校長	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの共同体は人間関係づくりが重要。グループ活動が停滞しているところにすぐには入れるようにする。
小島	<ul style="list-style-type: none"> ・答申で個別最適の学びとっているがどう考えるか。
校長	<ul style="list-style-type: none"> ・何か分からない事があればタブレット等ですぐに調べられるようにしている。
小島	<ul style="list-style-type: none"> ・学びが楽しくなるのは良いこと。先生方も楽しくやれている。
校長	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においては、オンラインの授業が課題。対面の良いところを忘れてはいけない。タブレットはあくまでも道具として活用することが重要。
武井	<p>生徒の様子について生徒指導主事から</p> <p>①小中一貫あいさつ運動の取組から 成果があらわれつつある。地域の方からも挨拶について良い評価をいただけるようになった。</p> <p>②課題は不登校 ・年間30日以上欠席者は昨年度32名。今年度は9月で42名。小学校から不登校という生徒が増えている。欠席にはならないが、コロナの影響で大事を取る生徒もいる。</p> <p>③別室登校について ・昨年は1～2名の利用者であったが、今年度は7～8名。</p>
小島	<ul style="list-style-type: none"> ・他校についてはどのような状況か分からないか？ いずれにしても行政で手を打たないと中学で直すことができれば直るがそこで直らないとその後引きこもりを生む事態になってしまう。 ・以前に不登校生徒と関わることもあり、声をかけ続けることで、成人したら働けるようになった人がいた。その経験から「見捨てられていない」と感じる事が重要なのかと思った。
山口	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭のファッションショーで制服のデザインを発表していたが、男女で制服を選べないのか。
校長	<ul style="list-style-type: none"> ・スカートにするかスラックスにするか選ぶことはできる。次年度より通知を出す予定。
西本	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校に対する小中一貫の取組はないのか。
武井	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換や情報の共有をしている。
西本	<ul style="list-style-type: none"> ・小1プロブレムという言葉を先日、実感した。保護者対象の講座を開いたときに基本的な生活習慣を身に付けさせたりやコミュニケーションをとったりすることが重要だという話をしたが、意外な反応で分かっていない人やどうすれば良いのかという反応が多かった。
中川	<ul style="list-style-type: none"> ・実は分かっているようで分かっていない人が多い。今は、生後半年ぐらいで子どもを預けてしまう世の中になっている。家庭でといわれても保育園や幼稚園に任せている現状なのでどうしたらよいか分からないという家庭が増えているのであろう。
西本	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育そのものが分からないのではという感じであった。
中川	<ul style="list-style-type: none"> ・制服の話があったが、雨天時も制服でなくてはいけないのか。
武井	<ul style="list-style-type: none"> ・雨天時のジャージ登校も認めている。
池上	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験でもジャージで来るように学校に伝えている。今、軍手のある家庭が少ない。軍手を用意するように伝えても家庭で使っていない。こちらで準備して使わせるが、家庭にも変化が。
青木	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒についても現在、スマイル教室利用者が増加している。適応教室が各地区にあるのが望ましい。
高野	<ul style="list-style-type: none"> ・中1ギャップ、小1プロブレムについて何かいい方法で解消できれば。地域が解消に何か役立てば。

6 連絡・その他

- ・次回第3回学校運営協議会日程について
令和4年1月13日（木）14時より 会議室